

第3回 下関市総合計画審議会  
議事要旨

日 時 令和6年7月11日(木) 午後1時30分～午後4時  
場 所 下関市役所本庁舎5階大会議室  
出席者 杉浦委員、斎藤委員、畚野委員、山田委員、乙部委員、河村委員、  
西川委員、田邊委員、倉重委員、中原委員、入谷委員、秋枝委員、  
五十嵐委員、伊藤委員、西本委員、松野委員、若林委員、藤澤委員、  
西村委員、阪本委員、橋本委員、板倉委員、井上委員、富永委員、  
渡壁委員、宮本委員、穂山委員、日下委員、中西委員、平岡委員  
山本委員(web)、上杉委員(web)、中山委員(web)

議題

- 1 策定進捗状況
- 2 各部会の審議経過報告
- 3 目標指標(KGI・KPI)、主な取組、基本構想の説明
- 4 今後の予定

## 1 第3次下関市総合計画の策定進捗状況について

資料を用いて、事務局より説明。

## 2 各部会の審議経過報告について

(委員)

○医療面で、将来的に市内の産婦人科医は足りているのか。人口減少対策を講じる中で、医師不在で出産できなくなる懸念はないのか。産婦人科に対する医療体制はいかがか。

(保健部)

○ご指摘のとおり、産婦人科医の確保は重要な課題であると認識している。周産期医療を担う人材の確保や環境整備は、山口県の第8次保健医療計画の中で取組が進められており、市としても国や県と連携して周産期医療提供体制の確保に努めていく。

(委員)

○公共交通機関である最終バス時刻の繰り上げについても不満の声がきこえる一方で、事業者側としては運転手不足が原因とも聞いている。いずれにしても市民生活に影響を及ぼす部分であり、公共交通については長期的な目線で交通体系の見直し、例えば駅を増やして、駅までバスで行き電車で移動するという形にシフトすべきではないのか。

(都市整備部)

○ご指摘のとおりであるが、今後の公共交通の維持・再編は都市計画・まちづくりと一体化した政策が必要。令和2年に策定した立地適正化計画という都市機能と居住機能を一定のエリアに集約して人口密度を維持しようという計画がある。

また令和4年に市のまちづくりの方向性を示す都市計画マスタープランも改訂している。都市拠点となる下関駅周辺と新下関駅周辺、地域拠点、生活拠点を交通の結節点として広域的な交通ネットワークで結ぶのが都市計画の方向性で、その方向性に沿って今後施策を展開していく。交通の空白地域については素案にも掲載している通り、乗り合いタクシーやコミュニティバス、ライドシェア、自動運転を検討していく。

(委員)

○素案4章4節障害者福祉の充実について、障害者福祉は充足されてきていると思うが、権利についてはまだ充足されていないと思う。具体的には障害者雇用を権利をもって自立・生活していくこと。障害者雇用促進法の中で、企業に障害者雇用何%という方針があるように、障害者が働き・自立することの総合計画への記載を十分に考えていただきたい。企業が障害者雇用の目標を達成するために、例えば市から企業への優遇措置が重要で、そこをしっかりと充実させて欲しい。

○大切なのは障害者が自分で働いて自立して生きていく権利。これが満たされていない。企業にとって障害者雇用は大変だが、権利を守るためにも、総合計画に記載して欲しい。そのためにも市が障害者を雇用した企業に対する支援や業務委託があるが、総合計画に障害者雇用についての記載があれば企業も計画を必ず見るはず。

○もう少し記載をはっきりさせて欲しいと思う。

(福祉部)

○4章4節の障害者福祉では障害者への支援サービスや、どう支援していくかという福祉的側面を記載しており、障害者雇用については素案1章3節「地域産業を支える労働力の確保」②シニア層、女性等の就業機会の拡充において「市内企業に対して、シニア層や女性、障害者の雇用の確保、さらに

は外国人材の活用に向けた働きかけを行います。」と記載している。

専門部会でも意見をいただいたことを踏まえ、「シニア層、女性、障害者等の就業機会の拡充」と記載を改める。

(委員)

○農業の担い手という観点から、自然との共生、生物多様性に関して CSA (Community Supported Agriculture (地域支援型農業:生産者と消費者が連携し前払いによる農産物の契約を通じて相互に支え合う仕組み)) というものを組み入れたらよいのではないかと。私もファーマーズマーケットを開催して農家と消費者が直接つながれる場を設けているが、農家の収入は安定せず、販路開拓は難しい。

(農林水産振興部)

○市としては、CSA を具体的に推進していくについては検討が必要だが、地域・消費者と連携した地産地消の推進、農作物の付加価値を高めていくブランド化や有機農業等の取組への支援は重要であると考えている。

1 章 1 節(4)①需要に対応した生産振興

「地域と連携した地産地消の推進、高付加価値で特色ある・・・」

と記載を改める。

(委員)

○素案において、子育てが孤独にならないようにという反映には共感する。「切れ目のない総合的な子ども・子育て支援」とは具体的にどのようなものなのか。

○切れ目のない支援という点では、家庭に入っていきようなサポートはできないのか。妊娠後に自殺するような事例が増えているとニュースで知った。市内に大学が複数あるのでピアサポートとして大学生のアルバイトをマッチングして、発熱時や外出時のサポートに活用できると良い。ニーズを把握するアンケートは実施したようだがどのような形になったのか。産婦人科も小児科も減少している。下関市内の大学に通う留学生が下関市に住みたいと思っても就職先がなく北九州に流れている状況だと聞く。

(会長)

子育て関係は今年度から新しい取組を行っており、もっと周知が必要かもしれないが、ご意見の取組は総合計画ではなく実行計画のレベルになりそうなので関係部署で検討願いたい。

(こども未来部)

○本年4月にこども家庭センターを開設し、妊娠前から出産後まで集中的に相談できる体制を保健部と連携して組んでいる。

(委員)

○素案の花いっぱい計画について、国道9号線沿いの花壇に空きがみられる。5分の1程度を下関21世紀協会が鉢植えしているが、空き花壇が多すぎて限界を迎えている。道路沿いの企業に依頼しても働き方改革等の影響で社員に頼めなくなっている。また、水道もないのでバケツに水を汲んで車で近くまで来て駐車場に車を停めて水やりをするため、大変で継続してもらおうのが厳しい状況。総合計画に掲載すること自体は結構であるが、しっかり取り組んで欲しい。

計画に掲載するのならしっかりやり、やらないなら計画に掲載しないということで検討してほしい。

(都市整備部)

○ご指摘の点はこれまでもご意見頂いている部分であり、今後花いっぱい計画が維持できるように取り組みたい。

(委員)

○国道9号線は国道なので国が管理すべき、県道は県が管理すべき問題。下関21世紀協会が苦勞することはなく、福祉関係事務所に委託する手もあるのでは。

(都市整備部)

国道の中央分離帯については国道管理者に伝える。

### 3 目標指標 (KGI・KPI)、主な取組、基本構想の説明

資料を用いて、事務局より説明。

### 4 今後の予定

以上